

令和3年度広島県教育賞及び広島県教育奨励賞の 受賞者の決定について

令和3年度広島県教育賞及び広島県教育奨励賞の受賞者を、
1月14日の教育委員会会議で決定しました。

1 表彰の趣旨

学校教育，社会教育，体育・スポーツ，地域文化，教育行政のそれぞれの分野において，教育賞は功績が特に顕著なもの，教育奨励賞は成果等が他の模範として推奨できるものを県教育委員会が表彰し，県教育の振興・発展に資する。

2 受賞者（別紙のとおり）

広島県教育賞 個人 13名， 団体 1団体
広島県教育奨励賞 個人 18名， 団体 5団体

3 その他

受賞者は，県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」で広く周知する。

（表彰式は，新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施しない）

（参考）

区 分	創 設 年 度	延べ受賞者数（今回表彰分を除く。）
広 島 県 教 育 賞	昭和44年度	個人476名，団体51団体
広 島 県 教 育 奨 励 賞	昭和59年度	個人606名，団体224団体

令和3年度広島県教育賞受賞者

○個人

(年齢は令和4年1月14日現在)

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	おお 大 た 田 こう 恒 じ 二 (60歳)	広島市立川内小学校 校長 (広島市)	<p>「幼保小連携実践研究」の指定を受け、学区内の4つの園（川内幼稚園、川内保育園、川内菜の花学園、みのり愛児園）から小学校への円滑な移行を目的とした研究計画・実践に取り組み、その成果を県内外に広く発信されるなど、幼児教育・学校教育の充実に尽力している。</p> <p>また、広島市小学校長会会長を務め、豊富な見識と実践を生かして会の運営を行い、広島市の小学校教育の充実と発展に貢献している。</p>
	みや 宮 もと 本 ひろ 浩 つぐ 嗣 (60歳)	福山市立御幸小学校 校長 (福山市)	<p>子供たちが道徳的価値のよさに気付き納得することができるよう道徳と他教科、日常経験とのつながりを整理しながら、道徳の授業研究を進めた。道徳での取組を、子供たちが、自分の思いを自分の言葉で表現したり、本音で議論したりすることを大切にしたい授業や児童会活動等につなげ、子供たちの自己肯定感を高めた。</p> <p>また、広島県連合小学校長会会長として、本県全体の学校教育の充実と発展に貢献している。</p>
	いけ 池 だ 田 とき 時 お 雄 (60歳)	呉市立昭和北中学校 校長 (呉市)	<p>広島県教育委員会から中学校英語授業の効果的な指導方法（5ラウンドシステム）等に関する実践研究の指定を受け、外国人生徒とのコミュニケーションを図ることへの興味・関心を高めるとともに、英語力の向上を目指し、5ラウンドシステムを取り入れた中学校英語授業の在り方に関する実践的研究を進めた。</p> <p>また、呉市立中学校長会会長を務め、「授業改善の推進」「防災教育の充実」「働き方改革の推進」を柱とする呉市がめざす学校教育の推進に大きくリーダーシップを発揮している。</p>
	お 小 がわ 川 み 美 き 樹 (60歳)	府中市立第一中学校 校長 (府中市)	<p>広島県教育委員会から不登校SSR推進校の指定を受け、当該校の校長として、不登校、不登校傾向及び特別な支援が必要な児童生徒への支援を推進している。校長として赴任した各学校において多くの成果を上げ、実績をもって小学校併設型中学校のマネジメントに着手した。コミュニティ・スクールの取組みに手腕を発揮し、学校運営協議会委員と中学生が協議する場を設け、地域貢献を軸に社会に開かれた教育課程の実現を体現している。</p> <p>また、府中市立学校の校長会長として、府中市全体の小中一貫教育とコミュニティ・スクールを牽引している。</p>
	しげ 重 おか 岡 のぶ 伸 はる 治 (60歳)	広島県立 広島中央特別支援学校 校長 (広島市)	<p>現任校において、単一障害学級および理療科において令和2年度の教育課程の実施を完結し、ICTの活用も積極的に推進した。理療科の国家試験合格率上昇などの成果が出ている。</p> <p>広島県教育委員会事務局での勤務経験も豊富であり、行政の立場で特別支援教育の充実に努めた。特に特別支援教育課では、特別支援教育ハンドブックの発刊を指導する等、今日の本県特別支援教育の基礎を築いた。平成30年度からは、特別支援学校長会会長としてリーダーシップを発揮するなど、特別支援教育の発展に大きく貢献した。</p>
	ひら 開 えい 英 じ 治 (60歳)	広島市立 広島みらい創生高等学校 校長 (広島市)	<p>平成29年度からは、広島市立広島みらい創生高等学校初代校長として、広島大学と連携して取り組んでいる、ソーシャルスキルを高めるための授業「ミライズプログラム」で、対人関係技能や日常生活に必要な問題解決技能などの習得を図り、生徒に自己の将来の生き方や進路について考えさせるなど、県内初となる、定時制・通信制を兼ねたフレキシブルな学校教育活動をより充実させていくため、学校経営に尽力している。</p> <p>広島市教育委員会事務局での勤務経験も豊富であり、永きにわたり広島市の学校教育・教育実践の充実・発展を図った。</p>

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学校教育	亀井伸幸 (59歳)	竹原市立吉名学園 校長 (竹原市)	<p>複数の中学校長を経て、平成30年度、竹原市初の義務教育学校「吉名学園」の初代校長に着任した。</p> <p>同園では、創設以来、総合的な学習の時間「YOSHINA未来学」に取り組み、学校と地域が一体となった教育活動を具現化し、系統的なカリキュラムを構築している。令和2年度からはコミュニティ・スクールとしてスタートし、児童生徒の学習の場を学校運営協議会と意図的に連携させる等、その活用や効果を活かした取組を推進している。</p> <p>また、豊田竹原中学校校長会の会長として、各中学校の学校経営の向上及び人材育成を中心に、研修や事例交流等を実施している。</p>
社会教育	朝川照雄 (68歳)	(東広島市)	<p>東広島市を中心に、広島県内の保育所や小学校等で、40年以上にわたり、絵本の読み語りをを行っている。延べ回数は2,000回を超えており、年間にすると60回近く読み語りをを行っている。この活動は、子供が本に興味を持ち自ら進んで読書をするきっかけになるとともに、子供の豊かな感受性や想像力を育み、文章を理解する能力の向上に寄与しており、子供たちの健全な育成に貢献している。</p>
	岡本由姫美 (72歳)	府中市社会教育委員 (府中市)	<p>府中市社会教育委員として、府中市の社会教育全般の推進に関わり、長きにわたって社会教育委員会議の中心的役割を果たしている。また、広島県社会教育委員連絡協議会で理事を務め、県全体の社会教育推進にも貢献している。</p> <p>保育士、保育所運営の経験を生かし、家庭教育の分野から子育て、親育ちの環境整備に尽力してきた。</p> <p>また、レクリエーションに関する資格を多数保有し、対人援助技術としてのレクリエーションを生かし、地域のサロン・高齢者施設・病院・地域子供会等でレクリエーション支援を行っている。</p>
	長谷川勉 (72歳)	海田町社会教育委員 (海田町)	<p>和太鼓文化の伝承と青少年健全育成を目的として、子供和太鼓クラブ「海田鼓童子」を設立し、代表兼指導者として小・中学生を対象とした和太鼓教室に精力的に取り組み、けんみん文化祭では3回の最優秀賞受賞、国民文化祭へは2回の出場に導いている。また、海田町内で活動する各種音楽団体からなる「音楽ボランティアサクラガーデン」を編成し、演奏者に発表する機会を提供するなど、生涯学習を推進している。</p> <p>海田町社会教育委員会議では、副議長として文化振興の観点からの意見を積極的に発言し、社会教育行政に大いに貢献している。</p>
体育・スポーツ	中門出幸雄 (72歳)	せらスポーツクラブ 会長 (世羅町)	<p>様々な要職に就き、せらにスポーツクラブの設立に携わり、設立後は会長に就任し、自身も競技者として各種陸上競技大会に出場するかたわら、せらスポーツクラブ陸上部並びに世羅町立世羅西中学校陸上部の指導員としてジュニアの競技力向上だけでなく礼儀や生活習慣を含めた指導に尽力している。</p> <p>また、世羅町体育協会や世羅郡陸上競技協会の役員として、町内で開催される数多くの駅伝大会等運営の中心的存在として活動するなど、その功績は顕著である。</p>

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
地域文化	うねがわ すすむ 宇根川 進 (70歳)	江田島市 史料整理活用アドバイザー (江田島市)	<p>江田島市文化財保護委員会委員長として、長年に渡り江田島市内文化財の保存・保護活動に尽力してきた。</p> <p>海軍兵学校に関する調査研究に努め、「鎮守府候補地にかかる公文書」や「飛渡瀬開削にかかる報告書」等の史資料発掘に貢献するとともに、『近代遺産調査報告書―軽工業―』等への寄稿や『呉・江田島歴史読本』発刊への協力等、広く郷土史の普及に尽力してきた。</p> <p>現在も、江田島市ふるさと歴史講座や、呉・賀茂管内文化財保護審議会委員協議会研修会等において講師を務め、文化財の保存・保護や郷土史研究への機運の高まりに貢献している。</p>
	くにしやう としあき 國正利明 (101歳)	世羅町古文書をよむ 読書会 顧問 (世羅町)	<p>世羅郡甲山町において文化財保護委員会委員と甲山町史編纂委員会委員を務め、近世古文書の調査・研究・整理及び無形民俗文化財（備後神楽など）の保護・伝承等について積極的に尽力してきた。</p> <p>また、甲山町備後神楽保存会を昭和50年に発足させ、当時の若年層である甲山町青年団団員を指導した。</p> <p>各委員等退任後も精力的に活動、永年にわたる文化財保護の推進に尽力している。</p>

○団体

区分	団体名 (所在地)	功績等
地域文化	ゆきじんぎほぞんかい 油木神儀保存会 会長 ひろなか ひろし (神石高原町)	<p>昭和35年に広島県無形文化財に指定されたことに伴い保存会を発足し、以降、保存会の神儀委員から選出されて世話方が神儀団を運営しており、これにより神儀を後進に指導する体制となっている。</p> <p>保存会は後世にも受け継いでいくために、神儀の楽器、小道具などの保存に努めている。直近では、神儀の際に必要な鎧や鐘、太鼓の修繕を行っている。また、口伝えであった舞い方を冊子に整理し、神儀の舞い方を収めたDVDを製作するなどの活動も実施している。</p>

13名 1団体
(並びは区分(校種)別,氏名等(五十音順))

令和3年度広島県教育奨励賞受賞者

○個人

(年齢は令和4年1月14日現在)

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学 校 教 育	伊藤 尚子 (39歳)	廿日市市立 廿日市小学校 教諭 (廿日市市)	<p>幼児教育長期派遣研修生として一年間幼稚園で研修した内容を生かしたスタートカリキュラムを作成し、児童や保護者が安心して学校生活をスタートできるような実践を行った。</p> <p>また、スタートカリキュラムの考え方や見直しの視点、幼保小連携・接続の観点等を様々な研修会で広く普及するなど、県内の幼保小連携教育の推進に貢献した。</p>
	木村 千恵 (54歳)	呉市立横路小学校 養護教諭 (呉市)	<p>令和2年度、第65回中国地区学校保健研究協議大会(山口大会)養護教諭部会において、「組織的にすすめる学校保健活動について～構造化と連携を大切にした取組を通して～」と題して、発表や令和3年度広島県西部教育事務所管内保健主事研修において、「組織的に学校保健活動を行うために」と題して、講師を務めるなど、学校保健活動に関する研究を推進し、普及させることに継続して取り組んでいる。</p>
	志田原 聡美 (36歳)	福山市立久松台小学校 教諭 (福山市)	<p>学年を超えた内容に触れるカリキュラムの作成や、発問、切り返し、視点を変える一言といった教師のファシリテーションスキルの向上などについて教職員間で協議しながら、研究を進めている。総合的な学習の時間では、3～6年の合同授業を実施するための校内行事等の調整、SDGsと関連付けたテーマ設定や探究の進め方についての校内研修実施など、カリキュラム編成・実施の中心的な役割を担っている。また、子供たち1人1人の学びの様子や変化を丁寧に見取るために、ポートフォリオを活用した記録・ファイリングなど、評価の見直しを進めている。</p>
	白石 喜子 (39歳)	尾道市立美木原小学校 教諭 (尾道市)	<p>平成30年度に文部科学省「学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の利活用に係る調査研究」「尾道市読書活動推進指定校」の指定を受け、司書教諭として、学校図書館の利活用を積極的に推進した。また、NIE担当として、情報収集と情報発信の両面から新聞を活用した取組を推進し、平成31年度子供の読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受けており、広島県NIE教育奨励賞も2年連続受賞した。担当者として、これらの受賞に大いに貢献した。</p>
	住田 裕子 (52歳)	江田島市立大古小学校 教諭 (江田島市)	<p>児童自身が学習の進度や学習方法を決め課題に取り組む「自学(自立的な学習)」と協働的な学びを有機的に組み合わせた学習を開発し、率先して実践を行いながら改善を進め、校内での普及を図った。</p> <p>令和3年度も、この研究成果をもとに研究をリードし、自ら率先して自学と協働の効果的な実践について改善に努め、その成果を様々な機会を通して広く校内に普及させ、実践を促進するとともに、市内の中・高等学校等からも授業視察を受けるなど、広く市内へも効果を波及させている。</p>
	藤原 紀子 (46歳)	府中市立国府小学校 教諭 (府中市)	<p>広島県東部教育事務所主催の進路指導主事研修にキャリア教育の講師として招聘され、「地域協創カリキュラムの開発と地域企業と連携したキャリア教育推進」について発表するなど、東部教育事務所管内のキャリア教育の模範となった。</p>
	三宅 知英子 (48歳)	北広島町立八重小学校 教諭 (北広島町)	<p>広島県教育委員会が主催するパワーアップリーダー研修に参加し、北広島町教育委員会主催の研修において、パワーアップリーダー研修の内容を踏まえ、新学習指導要領の内容を踏まえた小学校外国語の指導方法、新教材の活用方法等について研究授業、講義及び演習を行い、成果の普及を図り、町内教員の指導力及び英語力の向上に大きく貢献した。</p>

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学校教育	やっ 八 塚 直 美 (44 歳)	三次市立八次小学校 教諭 (三次市)	その高い専門性と取組の成果を、令和2年度から十日市小学校に設置した通級による指導を行う担当教員や、三次市内の他の学校に発信した。そのことによって、令和2年度は、八次小を含め市内4校の児童が通級による指導を受けて成果をあげている。令和3年度は、当該職員が指導した児童が進学した中学校を含め、三次市内8校の児童生徒が通級による指導を受けて成果をあげており、三次市内の各学校の通級による指導や、特別支援教育の推進に大きく貢献した。
	あわ 粟 津 良 子 (52 歳)	安芸高田市立 高宮中学校 教諭 (安芸高田市)	第7回中国・四国地区へき地教育研究大会徳島大会において、課題別分散会中学校部会において、提案発表を行った。 令和元年度第67回広島県国語教育研究大会では、中学校部会事務局長として大会運営に携わった。
	おか 岡 野 恵 子 (53 歳)	三次市立吉舎中学校 教諭 (三次市)	多くの教員研修を受講し、「古典を自分の生き方に生かそうとする態度を育てる中学校国語科学習指導の工夫—価値に基づくテーマ設定とその認識を深める教材開発を通して—」として研究を進めた。後鳥羽上皇を介した郷土とのつながりという視点で研究を進め、生徒の古典を自分の生き方に生かそうとする態度の育成に成果がみられた。
	かさ 笠 岡 美穂子 (46 歳)	三原市立久井中学校 教諭 (三原市)	中学校英語におけるICTを活用した言語活動充実プロジェクト担当者として、ICTを効果的に活用した中学校英語授業の指導方法等の研究を熱心に行い、校内のICT活用推進に尽力した。また、県教育委員会から依頼を受け、代表授業を実施し、主体的な学びの実現のために率先して研究した。 英語教育について、授業力が非常に高く、英語への興味関心の醸成や学力向上を図ってきた。
	せ 世 良 幸 子 (35 歳)	福山市立 新市中央中学校 教諭 (福山市)	令和元年度、民間企業と福山市教育委員会が共同で実施した教職員研修「21世紀型ティーチャーズプログラム」を受講した。研修では、教育の課題や未来、学びのメカニズムについて考え、他の受講者と学ぶことや教えることの本質的な意味を協議した。研修で学んだことは、現在の実践につながっている。令和3年度は、福山100NEN 教育推進協議会数学部会の北東ブロックリーダーを務め、自身の実践を市内に発信している。
	よし 吉 本 かをり (54 歳)	呉市立吉浦中学校 教諭 (呉市)	令和3年度第1回不登校SSR推進校連絡協議会において、「SSRの実践と今後の取組について」所属校での実践を発表した。 県内外から多くの学校がSSRの視察に来ており、実際に生徒の姿を見たり、これまでの取組について伝えることで、SSRの推進・普及に貢献している。
	しら 白 井 寛 子 (47 歳)	広島県立 総合技術高等学校 教諭 (三原市)	令和2年度 第26回全国高校生クリエイティブコンテストにおいて、2年間指導してきた生徒が794名、432作品の応募がある中、広島県の生徒としては、22年ぶりの文部科学大臣賞を受賞した。当該教諭は、家庭科の指導において、生徒に課題を認識させSDGsの視点で解決を図らせる指導の工夫を行うなど、生徒の受賞に向けた指導に中心的に関わった。
	なか 中 島 章 (50 歳)	広島県立 広島皆実高等学校 教諭 (広島市)	第61回、第63回国民体育大会剣道競技において少年男子監督を務め、また、平成27年から平成30年まで、広島県体育協会強化委員、指導者養成委員を兼任し、本県全体のスポーツ推進に貢献した。また、現任校では剣道部顧問として、令和元年度全国高等学校総合体育大会で3位、令和3年度全国高等学校総合体育大会で8位入賞を達成した。
	ひさ 久 山 慎 也 (50 歳)	広島県立 広島井口高等学校 教諭 (広島市)	英語でのコミュニケーション能力の育成に向け、技能統合型の言語活動をテーマとした実践研究を行った。その成果について、全国英語教育学会で発表するとともに、広島県立教育センター等が主催する研修講座や広島県高等学校教育研究会英語部会が主催する研究大会で実践報告を行うなど、研究成果の還元に努め、本県英語教育の充実・発展に貢献した。

区分	氏名 (年齢)	所属及び職名 (所在地)	功績等
学校教育	増田知美 (53歳)	広島県立 広島中央特別支援学校 教諭 (広島市)	平成29年度には、全日本盲学校教育研究大会(中・四国地区、特別支援教育)において、「特別支援学校(盲学校)におけるセンター的役割とネットワーク」について発表し、特別支援教育の推進に貢献した。
	森貴子 (51歳)	広島県立 庄原実業高等学校 教諭 (庄原市)	長年学校農業クラブ活動における指導に携わり、広島県学校農業クラブ連盟の代表としても県内の学校農業クラブ活動を牽引してきた。令和3年度、日本学校農業クラブ全国大会の意見発表会及びプロジェクト発表会において、広島県から6部門中4部門に出場するなど、学校農業クラブ活動が生徒の成長に結びつくよう努めている。

○団体

区分	団体名 (所在地)	功績等
学校教育	呉市立波多見小学校 校長 相模昇 (呉市)	令和元年度から2年間、「呉市タブレットモデル校」の指定を受け、タブレット端末を活用した教育活動を推進してきた。各教科における効果的な活用について研究するとともに、家庭へのタブレット端末持ち帰りの実証研究を行うなどし、一人1台端末配備などのGIGAスクール構想の実現に向け、研究成果を呉市内全校に普及させた。校務におけるペーパーレス化や健康観察でのロイロノート活用など、タブレット端末の活用による業務改善を推進し、呉市におけるICT活用の推進に尽力した。
	三次市立みらさか小学校 校長 吉浪徳香 (三次市)	令和2・3年度に「個別最適な学びに関する実証研究事業(EdTechの効果的な活用)」及び「三次市学力UP(ICT教育)推進校」の指定を受け、生徒指導の三機能を基盤とした「課題発見・解決学習」の授業づくりによる主体的に学ぶ生徒の育成を目指すと共に、「学力の定着」のためのEdTechの効果的な活用に取り組んだ。単元におけるプロジェクトやミッションを提示し、達成のための学習計画を児童が自分で作って進める「単元別プロジェクト学習」に取り組んだ。また、児童の「学習計画力」「学習習慣」「学び方の理解」を育む「みらさか版『委ねる』システム」を構築した。これらの成果を三次市内に発信し、市内の個別最適な学びに関する研究リーダー校として、大きく貢献している。
	広島県立尾道商業高等学校 (尾道市) 校長 小田浩	【商業教育アップデート】 社会の変化に柔軟に対応し、社会で活躍できる生徒を育成するため、令和元年度から商業高等学校4校の教員が協力して、生徒の主体的で協働的な学びを促すプロジェクト学習の要素を取り入れた学習プログラムを開発した。また、商業教育のアップデートを図るためにコアカリキュラムの策定等を行い、このプログラムによる実践を進めている。 令和3年度からは、これらの取組が他の専門学科や普通科、総合学科等におけるアップデートの一つのモデルとなることを目指し、学科等の特色を生かしたカリキュラムの開発等に取り組んでいる。 さらに、県内全域の商業科教員が参加する令和3年度広島県商業教育研究大会においては、4校の教員が開発した「ビジネス探究プログラム」について議論するパネルディスカッションを行うなど、取組成果の普及に努め、商業教育全体を牽引している。
	広島県立広島商業高等学校 (広島市) 校長 栗田正弘	
広島県立呉商業高等学校 (呉市) 校長 高村聖悟		
広島県立福山商業高等学校 (福山市) 校長 神田浩二		

区分	団体名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	福山市立鞆の浦学園 校長 宇根 一成 (福山市)	<p>令和2年度から福山市の「教科・学年の枠を超えた教育課程の編成・実施パイロット校」の指定を受け、「子供主体の学び」づくりに取り組んできました。学校独自の教科「鞆学」では、地域課題の解決やSDGsの達成に向けたテーマに取り組み、鞆学プロボノメンバー（地域の専門家）による出前授業や校外活動を実施するとともに、「鞆学」を通して身に付けた課題発見・解決能力や情報活用能力などを教科の学習にも生かしている。</p>
地 域 文 化	菅茶山顕彰会 会長 藤田 卓三 (福山市)	<p>神辺における郷土文化の先駆者「菅茶山」を顕彰し、その業績を後世へと伝えていくため、昭和62年に「菅茶山遺芳顕彰会」として発足し、平成18年には、今の「菅茶山顕彰会」に改称し活動を行っている。</p> <p>主な活動は茶山詩の研究、顕彰活動などを編集し、毎年1回会報を発行。5年を節目に記念式典・講演会の開催し、年次総会記念講演会や茶山学習会などを実施している。</p> <p>県内一円および近隣の幼・小・中・高校の子供たちを対象に毎年行われている「茶山ポエム絵画展」は、福山市内外各所でも展示会を行い、菅茶山を多くの人に親しんでもらえる機会となっている。</p>

個人 18名 5団体
(並びは区分(校種)別, 氏名等(五十音順))